



# 日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.15

---

---

## 目 次

1. 第12回日本ワクチン学会学術集会を終えて  
第12回学術集会会長 岡 徹也……………2
  
2. ワクチン関連トピックス
  - 1) トピックス I 『「麻しんに関する特定感染症予防指針の告示」と現在の状況』… 2
  - 2) トピックス II 『平成20年度インフルエンザHAワクチン製造株』……………3
  - 3) トピックス III 『ワクチン接種後の血管迷走神経反射』……………4
  - 4) トピックス IV 『百日咳の流行（感染症週報IDWR: 2008年28週（第28号）  
注目すべき感染症より内容を一部抜粋）』……………4
  
3. 第13回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第1報）  
第13回学術集会会長 喜田 宏……………5
  
4. 会員会告
  - 1) 2008年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録（2008年3月16日）……………6
  - 2) 2008年度第1回Vaccine誌編集委員会議事録（2008年3月16日）……………8
  - 3) 2008年度第2回Vaccine誌編集委員会議事録（2008年6月15日）……………11

## § 第12回日本ワクチン学会学術集会を終えて

第12回日本ワクチン学会学術集会長  
財団法人 化学及血清療法研究所  
岡 徹也

第12回日本ワクチン学会学術集会を2008年11月8～9日、熊本市の崇城大学市民ホールで開催しました。基礎・臨床・開発・製造・行政などの幅広い分野から参加者は560名に達し、最後まで熱心な討議がなされました。

一般演題は募集開始早々に数多く申し込まれ、採択総数は69演題に上りました。締め切り後も申し込みが続きましたが、お断りすることになって申し訳なく思います。第3回高橋賞は、「中国でのポリオ根絶計画の推進とポリオフリー達成の実証に関する研究」が選出され、千葉靖男先生が受賞されました。これは、中国山東省におけるポリオ流行をワクチン一斉投与によって根絶したという功績によるものです。シンポジウムIは「日本版ACIP」と題して、山西弘一先生の司会で、Alan R. Hinman先生が米国の状況を、岡部信彦先生が感染症情報センターの立場から、中山哲夫先生がワクチン学会ワーキンググループの活動を、また梅田珠実先生が行政の立場から、それぞれ講演されました。シンポジウムIIでは「成人ワクチン」を取り上げて、神谷齊先生の司会により、岡田賢司先生がDPT、尾崎隆男先生が水痘、小田切孝人先生がパンデミックインフルエンザ、および安井良則先生が麻疹について講演され、成人領域での流行およびそれに対する考え方が討議されました。

さらに、倉根一郎先生の司会による「日本脳炎ワクチンの展望」のワークショップでは、多屋馨子先生が国内における疫学、高崎智彦先生がワクチンの防御効果ならびにこれまでの経緯について、小西英二先生が国内の不顕性感染の状況；NS1抗体保有率、森田公一先生がアジアにおける疫学、また鹿野真弓先生が新しい日本脳炎ワクチンに求められる要件などについて講演され、最後にJin Ho Shin先生がWHOの立場からの発言をされました。このセッションは故大谷先生が自ら座長をするという思い入れを示されて実現したのですが、それが叶わぬことになったのは残念でなりません。元感染研所長の山崎修道先生に、故大谷先生を偲ぶお言葉を頂き、なおさら無念さがこみ上げてきました。

ランチョンセミナー①では、Theodore F. Tsai先生が「Cell Culture-derived influenza vaccine : current status and future potential」について、②では、野呂信弘先生が「HPV感染による子宮頸癌発生にかかわる発癌因子と免疫システム」について講演されました。いずれもホットな話題で、参加者にも満足していただけたと思います。

例年同様に今回も多く参加者があり、新しいワクチン開発の紹介も多くありました。これらのワクチンが一日も早く市場に供給される日が来ることを期待してやみません。

---

## § ワクチン関連トピックス

### トピックスI

#### 「麻疹に関する特定感染症予防指針の告示」と現在の状況

平成19年12月28日、感染症法第11条第1項および予防接種法第20条第1項の規定に基づき、「麻疹に関する特定感染症予防指針（以下、指針）」が策定され、厚生労働大臣により告示された（厚生労働省告示第442号）。適用開始は平成20年1月1日である。

平成20年度からの5年間を麻疹排除(elimination)のための対策期間と定め、平成24年度までに国

内から麻疹を排除しその状態を維持することが目標とされている。1歳児（第1期）、小学校入学前1年間の者（第2期）への麻疹および風疹の予防接種2回接種制度に加えて、中学1年生と高校3年生に相当する年齢の者を第3期、第4期とし、5年間の時限措置として、定期予防接種対象者に加えた。麻疹排除には2回の接種がそれぞれ95%以上になることが求められている。重点的な接

種勸奨期間は4～6月であったが、厚生労働省健康局結核感染症課の調査による6月末時点の接種率は、中学1年生相当年齢（第3期）が38.8%、高校3年生相当年齢（第4期）が29.6%と目標の95%以上には到達していない。詳しい情報は、厚生労働省HP：第2回麻疹対策推進会議－議事次第第一： <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/s0903-8.html>

と、平成20年度麻疹予防接種第3期、第4期接種状況（第1四半期終了時点：各市町村別）  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/081003a.pdf>  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/081003b.pdf>  
 に詳しく掲載されている。

また、麻疹排除の達成には人口100万人あたり患者数1人未満となることに加えて、たとえ輸入例があっても、その後大規模な集団発生にならないことが必要であるが、そのためには予防接

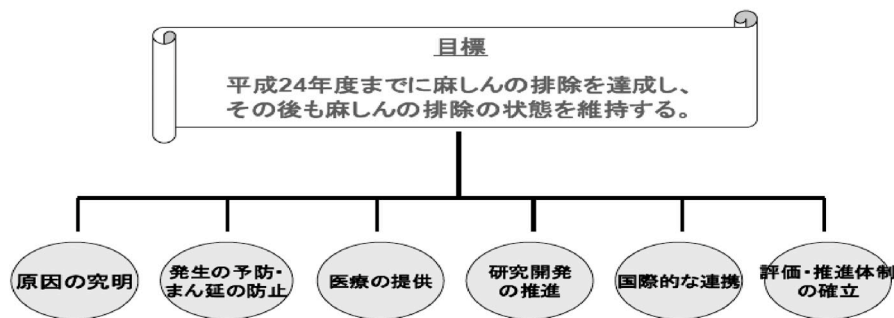
種歴を含めた全数報告が不可欠と考え、麻疹を全数把握疾患に変更し、麻疹と診断した場合、すべての医療機関が可能な限り24時間以内に、患者の予防接種歴も併せて感染症法第12条に基づく報告を行い、検査診断を行った場合は、その結果について、保健所に報告することが求められることになった。

感染症発生動向調査による2008年1月1日から11月9日までの報告数は、11月12日集計時点で10,904人であり、人口100万人あたり80人を超えている。予防接種歴は、無しが約半数、1回有りが約25%、2回有りが約1%、残りが接種歴不明であった。

また、患者が発生したときの迅速な対応も重要であることから、患者発生時には、都道府県等が感染症法第15条に規定する積極的疫学調査が実施できるよう、手引きの作成や人材の養成を行う必要があることが明記された。

図 麻疹排除に向けて（告示・政省令の改正通知について）  
 厚生労働省健康局結核感染症課 麻疹ブロック会議資料より

## 麻疹に関する特定感染症予防指針



### トピックスII

#### 平成20年度インフルエンザHAワクチン製造株

生物学的製剤基準（平成16年3月30日厚生労働省告示第155号）の規定にかかる平成20年度のインフルエンザHAワクチン製造株については、下記の3株である。

A型株

A／ブリスベン／59／2007（H1N1）

A／ウルグアイ／716／2007（H3N2）  
 B型株

B／フロリダ／4／2006

薬食発第0617007号厚生労働省医薬食品局長通知  
 （平成20年6月17日）より

### トピックス III

#### ワクチン接種後の血管迷走神経反射

第3期、第4期の麻しん風しんワクチンの接種が定期接種になったことにも関連して、比較的年長の者に対する予防接種に際しては、血管迷走神経反射に注意する必要がある。注射の痛みや恐怖・不安等の精神的動揺により起こる生理的反應で、症状としては、顔面蒼白、冷汗、気分不良、悪心・嘔吐、徐脈、血圧低下、失神などが起こる。失神したときに外傷を起こさないよう、接種後30分は座って体調を観察し、何なければ帰宅するよう指導することが重要である。日本赤十字社によると平成16年度に献血時に気分不良、吐き気、めまい、失神などが起こった頻度は約0.8%であり、米国でもワクチン接種後の失神について、MMWR, 57, No.17, 457-460, 2008に論文を掲載している。その内容の抄訳が病原微生物検出情報 (IASR) 2008年6月号に掲載されているので、そこから内容を一部を抜粋する。

\*\*\*\*\*

ワクチン副反応報告システム (Vaccine Adverse Event Reporting System; VAERS) の2005年1月1日～2007年7月31日のデータを解析し、2002年1月1日～2004年12月31日の結果と比較したところ、

2002～2004年の期間中には203件の報告であったのに対し、2005～2007年では463件のワクチン接種後失神の報告が、5歳以上で報告された。5歳以上での年別発生率 (100万接種当たり) は、2002年0.30、2003年0.35、2004年0.28、2005年0.31、2006年0.54であった。2002～2004年と比較して、2005～2007年では、女性および11～18歳に明らかな増加が見られた。また、2005～2007年に報告された463件のうち、292件 (63%) は最近承認され、思春期成人に接種が推奨されている3つのワクチンのいずれかに関連していた。2005～2007年の463件のうち、33件 (7.1%) は重篤な結果を引き起こし、そのうちの26件についてワクチン接種から失神までの時間を調べたところ、12件 (52%) が5分以内、16件 (70%) が15分以内であった。26件のうち10件が失神に伴って受傷したが、うち9件は頭部外傷で、1件は運転中の失神による交通事故であった。ワクチン接種後失神に関連した受傷防止のため、ワクチン接種に関する諮問委員会 (ACIP) はワクチン接種後15分間の観察を強く推奨している。

\*\*\*\*\*

### トピックス IV

#### 百日咳の流行 (感染症週報IDWR: 2008年28週 (第28号) 注目すべき感染症より内容を一部抜粋)

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告数に基づいて百日咳の患者発生状況の分析を行っている。2008年の百日咳の週別の定点当たり報告数は、第22週をピーク (定点当たり報告数0.11、患者報告数343) とした大きな山が認められたが、そのピークを過ぎた後も過去10年間の同時期と比較して高い状態が続いている (図1)。第1～28週までの累積報

告数は4,093例であり、2000年以降の同時期までの累積報告数と比較しても、これまで最も多かった2000年の累積報告数 (2,211例) を大きく上回っている。2000～2008年まで (2008年は第28週まで) の年間の累積報告数の年齢別割合をみると、0歳児、1歳児を中心とした乳幼児からの報告割合は年々低下がみられている一方で、小児科定点からの報告ではあるものの、20歳以上の

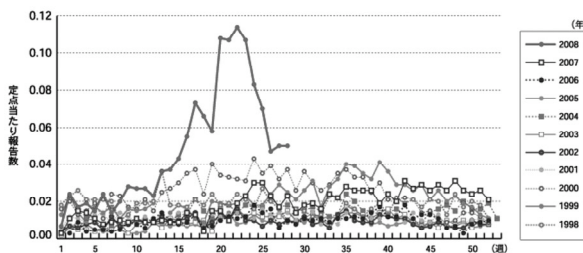


図1. 百日咳の年別・週別発生状況 (1998～2008年第28週)

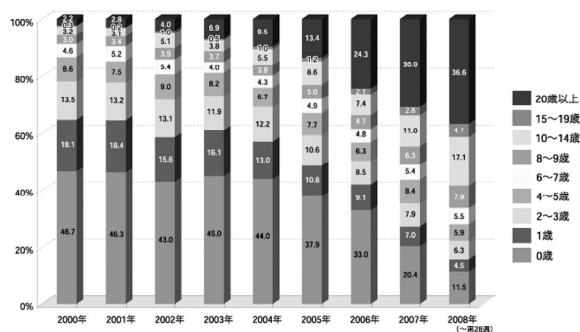


図2. 百日咳の年別・年齢群別割合 (2000年～2008年第28週)

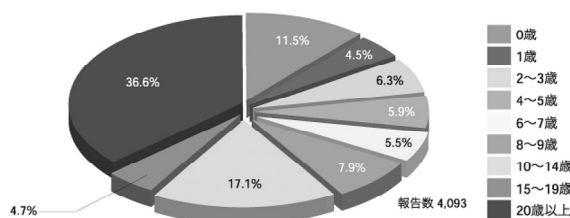


図3. 百日咳累積報告数の年齢群別割合 (2008年 第1～28週)

報告割合は年々上昇しており、2008年は28週までの報告ではあるが、20歳以上の割合は36.6%にまで達している (図2、3)。

現在の小児科定点のみからの発生動向調査だけでは、その実態を正確に把握することは困難であり、より正確な実態の把握と対策の立案が急務となってきている。感染症情報センターでは、百日咳を診断した医師よりその情報を発信

していただき、その情報を共有・分析するために、「百日咳DB：全国の百日咳発生状況」(<http://idsc.nih.go.jp/disease/pertussis/pertu-db.html>)を2008年5月8日より立ち上げた。本データベースが、全国の医療従事者や衛生部局関係者で情報共有され、今後の有効な対策の一助となることを期待する。

## § 第13回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ (第1報)

北海道大学大学院獣医学研究科  
会長 喜田 宏

第13回日本ワクチン学会学術集会を、平成21年9月26日 (土)、27日 (日) の2日間、ロイトン札幌にて開催することとなりました。是非、多くの方々のご参加をお願い申し上げます。

会 期：2009年9月26日 (土)～27日 (日)

テーマ：「ワクチンの過去、現在そして未来」

会 場：ホテル ロイトン札幌

住 所：〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 TEL：011-271-2711 FAX：011-207-3344

\* 演題申し込み期間

2009年1月15日～4月20日 (予定)

**\* 市民公開講座**

「はしか・風疹ワクチンは2回接種が必要です 一命に関わることから」

2009年9月25日（金）15:00-17:00

会 場：道新ホール 札幌市中央区大通西3丁目道新ビル大通館8階

**<お問い合わせ>**

第13回日本ワクチン学会学術集會事務局

北海道大学大学院獣医学研究科微生物学教室 迫田義博

〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目 TEL/FAX: 011-706-5208 E-mail: influ@vetmed.hokudai.ac.jp

---

## § 2008年度第1回日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2008年3月16日（日）11：00～13：00

場 所：国立感染症研究所 共用第二会議室

出席者：山西弘一（理事長）、浅野喜造（副理事長）、高橋元秀、上田重晴、大隈邦夫、清水文七、石川豊数、尾崎隆男、岡田賢司、岡部信彦、田代真人、谷口清州、多屋馨子、堀井俊宏各理事  
岡 徹也（会長）、喜田 宏（次期会長）

倉田 毅、中山哲夫 監事 中川庸幸（記録（株）春恒社）

欠席者：神谷 齊、清野 宏、各理事

### 報告事項

#### 1. 前回議事録の確認【資料：1】

山西弘一理事長から2007年度第2回・第3回理事会議事録の報告がなされ、承認された。

#### 2. 2008-2009年度役員担当について【資料：2】

山西弘一理事長から前回、新理事会で理事長一任された監事、推薦理事について紹介がなされた。

監 事 倉田 毅（国立感染症研究所/富山県衛生研究所）

監 事 中山哲夫（北里生命科学研究所）

推薦理事 多屋馨子（ニュースレター担当）、堀井俊宏（広報担当）

#### 3. 一般経過報告【資料：3】

山西弘一理事長より2008年3月10日現在の会員数の現況を含む一般経過報告がなされた。

また、本年2月に第1回日本ワクチン学会学術集會会長の 大谷 明先生がご逝去されたことが報告された。第12回日本ワクチン学会総会において、黙祷を行う。

#### 4. 平成19年度決算報告および会計監査報告【資料：4】

1) 大隈邦夫財務担当理事から報告がなされ承認された。

ニュースレターについては、ここ数年、学術集會の開催時期スケジュールもあり年度を跨ぎ発行していることから、発行期日と会計年度の調整を図るため、平成19年度はVol.13のみの経費を計上したことが報告された。

2) 中山哲夫監事から平成19年度会計監査報告がなされた。

3) また、倉田 毅第11回学術集會会長から学会へ第11回ワクチン学会学術集會の余剰金100万円を寄付したことの報告があった。

#### 5. 第12回日本ワクチン学会学術集會報告【資料：5】

岡 徹也会長から第12回学術集會の準備状況報告がなされた。なお、同学術集會のプログラム委員長には、大谷 明先生にお願いしていたが、本年2月にご逝去されたため、委員長代行として植田

浩司先生が就任されたことが報告された。

## 6. 第13回日本ワクチン学会学術集会報告【資料：6】

喜田 宏次期会長から報告がされた。

会 長：喜田 宏（北海道大学）

会 期：2009年9月26日（土）～27日（日）予定

会 場：ロイトン札幌

## 7. Vaccine誌編集委員会報告【資料：7】

岡部信彦担当理事（委員長）から2008年度第1回Vaccine誌編集委員会報告がなされた。

### 1) Vaccine誌編集委員会委員会規則（案）について

岡部委員長から委員会規則（案）が提出され一部の文言訂正の上、理事会で承認された。

### 2) Vaccine誌編集委員会委員について

岡部委員長から上記規則（案）の承認後2008-2009年度委員について報告がなされ承認された。

委員長 岡部信彦（国立感染症研究所）

委 員 荒川宜親（国立感染症研究所）

委 員 田代真人（国立感染症研究所）

委 員 中山哲夫（北里生命科学研究所）

委 員 浅野喜造（藤田保健衛生大学）

委 員 熊谷卓司（（医）社団恒仁会くまがい小児科）

委 員 奥野良信（阪大微生物病研究会観音寺研究所）

委 員 清野 宏（東京大学医科学研究所）※アドバイザーから委員へ就任

委 員 谷口清州（国立感染症研究所）※アドバイザーから委員へ就任

委 員 多屋馨子（国立感染症研究所）※アドバイザーから委員へ就任

### 3) Vaccine誌への今後の掲載予定について

岡部委員長から資料に基づき、今後の掲載予定についての報告がなされた。

## 8. ニュースレターについて

### 1) 多屋馨子ニュースレター担当理事から今回発行のゲラ刷りが提出された。

2) 山西弘一理事長から大谷 明先生のご逝去を偲び、先生の日本ワクチン学会の創設と功績をニュースレターおよびVaccine誌へ追悼文として掲載したい旨の提案がなされた。追悼文については、理事会、Vaccine誌編集委員会において、倉田 毅（前国立感染症研究所長）先生へお願いすることになった。これに伴い、3月にニュースレターの発行を予定していたが、追悼文を掲載するため、4月発行へ変更することが併せて承認された。

## 9. 広報委員会報告

清野 宏委員長が欠席のため堀井俊宏委員から広報委員会規則（案）と今後の活動について報告がなされた。

### 1) 広報委員会規則（案）について

第4条および第5条を以下のようにまとめ、承認することになった。

第4条 本委員会の委員は、理事会が担当理事を選任し、担当理事が会員の中から委員を選任する。

委員長は委員の中から委員長を互選する。委員の任期は2年とし再任を妨げないものとする。なお、委員会の構成は若干名程度とする。

### 2) 今後の活動の具体策について

#### (1) 日本ワクチン学会としてのホームページについて

当会ホームページの主たる目的は、社会への広報活動として、ワクチンについての概念や歴史、安全性などを広報する事も重要な活動であるとの認識している。しかし、このようなコンテン

ツは広報委員会だけでできるものではないので、学会員でWGを作り、そこで学会としてふさわしいホームページのコンテンツを作成していく。また、日本ワクチン学会 ワクチン推進ワーキンググループ（後述）とも連携し活動していきたい。

- (2) 前回議論されたQ&A 欄については、感染症情報センターへリンクしワクチンに関するQ&Aを抜粋するような形から始めていく予定である。

#### 審議事項

##### 1. 高橋賞選考委員会委員について【資料：10】

山西弘一理事長から同選考委員会の半数交代に伴い、理事会投票の結果報告がなされた。3名改選のうち、奥野良信先生、倉田 毅先生が上位得票である旨が報告された。また、神谷 齊先生、清野 宏先生が同数であるため規定に基づき理事会で協議することになった。専門分野を考慮すると臨床応用系の神谷先生であるが、現在、静養中であるとのことから、清野 宏先生に委員をお願いすることで承認された。また、事務局より高橋賞の応募状況が報告された。

##### 2. 学会提言等に関するワーキンググループについて【資料：11】

中山哲夫担当委員から2007年度第2回理事会、第3回理事会で議論された表記に関するワーキンググループの設立および名称についての検討案の資料が提出された。

- 1) 理事会での協議の結果、本ワーキンググループは、「ワクチン推進ワーキンググループ」と称することとした。
- 2) メンバーは神谷 齊理事、中山哲夫監事と広報委員会の堀井俊宏理事らで構成していき、状況に応じて、学会員を中心に構成メンバーを検討していくことになった。  
同グループは、ワクチンに関する現状の問題点の確認、学会としての提言や啓発活動も視野に入れて活動していくことが確認された。

##### 3. 多年度会費滞納者の退会処分について【資料：12】

4年以上会費滞納者（6名）および3年以上会費滞納者（25名）の一覧が配布され、4年以上会費滞納者は3月末までの入金をもって、自動退会とすることになった。また、3年以上会費滞納者については、理事会メンバーも協力し4年以上会費滞納者も含め、納入について促すことになった。

##### 4. 次々期会長の選出について

専門分野等を考慮し岡部信彦理事（国立感染症研究所）を理事会から第14回会長として第12回総会へ諮ることとなった。

以上

平成20年3月16日（日）

日本ワクチン学会

理事長 山西弘一

---

## § 2008年度第1回日本ワクチン学会Vaccine誌編集委員会議事録

日 時： 2008年3月16日（日）10:00~11:00

場 所： 国立感染症研究所戸山庁舎 共用第二会議室

出席者：【委員長】岡部信彦【委員】奥野良信、熊谷卓司、浅野喜造、田代真人、中山哲夫

【オブザーバー】山西弘一【アドバイザー】多屋馨子、谷口清州【記録】中川庸幸（株）春恒社）

欠席者：【委員】荒川宜親【アドバイザー】清野 宏

【出版社】海老原 実（エルゼビア・ジャパン（株））



### 1. 前回議事録の確認【資料：1】

岡部信彦委員長から前回議事録について報告がなされ、承認された。

### 2. Vaccine誌編集委員会委員の就任について【資料：2】

岡部信彦委員長から昨年の第11回学術集会時に開催された新役員による新理事会において、Vaccine誌編集委員会担当理事に就任したこと、委員会メンバーについては、理事長と相談し引き続き前期の委員に就任を引き続きお願いすることになったことが報告された。

また、いままでアドバイザーとして就任をお願いしていた清野、谷口、多屋各先生は委員として就任していただくことになった。オブザーバーについては、引き続き理事長が就任するが、正式なメンバーでなく、委員会の要請に応じて、出席を依頼することになった。同委員会メンバーについては、理事会で報告し承認後、委嘱状を発送し2008-2009年度委員として正式に活動に入る。

委員長 岡部信彦（国立感染症研究所）

委員 荒川宜親（国立感染症研究所）

委員 田代真人（国立感染症研究所）

委員 中山哲夫（北里生命科学研究所）

委員 浅野喜造（藤田保健衛生大学）

委員 熊谷卓司（（医）社団恒仁会くまがい小児科）

委員 奥野良信（阪大微生物病研究会観音寺研究所）

委員 清野 宏（東京大学医科学研究所）※アドバイザーから委員へ就任

委員 谷口清州（国立感染症研究所）※アドバイザーから委員へ就任

委員 多屋馨子（国立感染症研究所）※アドバイザーから委員へ就任

### 3. Vaccine誌編集委員会規則（案）について【資料：3】

岡部信彦委員長から前回委員会懸案であった委員会規則（案）が提出され以下の点を修正し理事会へ諮ることになった。

1) 第4条および第5条を削除し、第4条（委員会）条項としてまとめる。

2) オブザーバーおよびアドバイザーの条項は削除し、アドバイザーは委員として就任していただく。

3) 第6条（委員会の招集）→第5条（委員会の招集）付番変更

4) 第9条（掲載・投稿）→第6条（同左）付番変更

5) 第10条（規則変更）→第7上（同左）付番変更および、“委員会および”を削除

（委員会）

第4条 本委員会の委員は、理事会が担当理事を選任し、担当理事が会員の中から委員を選任する。

委員長は委員の中から委員長を互選する。委員の任期は2年とし再任を妨げないものとする。

なお、委員会の構成は10名程度とする。

（規則変更）

第7条 この規則は、理事会の承認によって変更又は廃止することができる。

なお、2008年度第1回理事会において、委員会メンバーおよび規則（案）が提出され、上記の修正を含めて承認された。

### 4. Vaccine誌への掲載原稿の進捗状況について

1) 第9回学術集会の統括およびシンポジウムのみまとめ（原稿担当：奥野良信先生）【資料：4】

岡部信彦委員長から第9回学術集会シンポジウムの原稿については、既に委員会で査読し英文校正は、廣田先生にお願いし了承されたことが報告された。

奥野委員（第9回学術集會会長）からその統括の原稿が提出され委員会で確認を行った。英文校閲については、著者がネイティブスピーカーへ校閲をお願いし修正の後、事務局へ送付することになった。事務局へ届き次第、エルゼビア社へ原稿を送付することになった。

2) 高橋賞設立の経緯について（原稿担当：清野 宏先生）【資料：5】

高橋賞設立の経緯を掲載する必要があることから清野先生が執筆した原稿が提出された。委員会で確認し、英文校閲については、著者がネイティブスピーカーへ校閲をお願いし修正の後、事務局へ送付することになった。

第1回高橋賞受賞者の浅野先生、神谷先生には受賞業績の総説の執筆を依頼しており、その原稿と併せて、エルゼビア社へ原稿を送付することになった。

3) 第12回学術集会のアナウンス（原稿担当：岡 徹也先生）【資料：6】

岡先生から本年11月に開催する第12回日本ワクチン学会学術集会アナウンス原稿が提出され確認を行った。エルゼビア社への入稿から掲載まで1,2ヶ月かかるため、プログラムなども含み掲載したほうがよいとのことから、岡先生へ企画案などの追記をお願いし掲載することになった。

4) 確認事項：医事新報社の原稿の英訳について

馬場宏一先生から投稿された原稿については、原稿を読み込みPDFファイルとして委員会で回覧することになった。なお、エルゼビア社へは電子入稿となることからこちらも馬場先生へお伺いし、原稿を確認することになった。

## 5. 2008年度の掲載予定について

1) 第1回日本ワクチン学会学術集会会長の 大谷 明先生が本年2月にご逝去された。日本ワクチン学会の創設、多大な功績を偲び、Vaccine誌へも追悼文を掲載することになった。

追悼文については、倉田 毅（前国立感染症研究所長）先生へお願いし、ニュースレターへ掲載するとともに英文翻訳しVaccine誌へも掲載することになった。本件については、理事会で提案し、2008年度第1回理事会において、承認された。

2) 第1回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：浅野先生、神谷先生）

岡部信彦委員長から現在の執筆状況について報告がなされた。浅野先生については4月中旬を目処に執筆依頼をお願いしており、神谷先生については、静養後の執筆となる旨の報告がなされた。

3) 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポジウムのまとめ

前回の委員会で企画・依頼を行うことを確認し事務局から以下の先生方に原稿執筆依頼を行い、全ての先生から了承をいただいた。原稿締切予定日は3月28日であることから、再度期日の確認を事務局から行うことになった。

- ・奥野良信 第11回日本ワクチン学会シンポジウム総括
- ・上田重晴 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ1
- ・植田浩司 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ2
- ・岡部信彦 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ3
- ・中山哲夫 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ4
- ・庵原俊昭 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ5

4) IASR英語版レビュー（原稿担当：岡部先生、谷口先生、多屋先生）

国立感染症研究所感染症情報センターの協力を得て、はじめに岡部信彦先生（同センター長）からIASRの説明の原稿を掲載し、その後に順次、日本のワクチンに関する現状を配信していくため、原稿の選定を進めていることが報告された。

## 6. アドバイザー清野 宏先生（現委員）からの提案について

清野 宏委員から以下の提案がなされ、委員会で協議を行った。

1) 今後Vaccine誌へ掲載原稿が載ったあとは、日本ワクチン学会の編集委員メンバーの氏名リストを日本ワクチン学会Vaccine誌編集委員会（JVC Editorial Committee for Vaccine）として適時、掲載していくことが好ましいとの提言を受け、本件については、今後の掲載時に適時掲載していくことが承認された。

2) 日本ワクチン学会からの発信として、インパクトのある感染、免疫領域の総説を掲載していき、若い人を含め感染、免疫、ワクチン関連で評価の高い論文を出した日本人研究者・日本在住海外研究者・日本近隣諸国（アジア発）研究者へレビューの依頼をしていくとの提言を受け、前

向きに検討していく事項であることを確認したが、Vaccine誌自体への総説とも絡むため、まずは、日本ワクチン学会学術集会での議論を世界へ発信することを優先し、今後の継続検討課題とすることで確認された。

## 7. その他について

本委員会は、年2～3回の開催となるため、執筆原稿に関する意見や協議はメーリングリストを中心に行っていくことが確認された。後日、事務局からテスト配信を行い、第9回学術集会統括、高橋賞設立の経緯、第12回学術集会案内の原稿を配信し、早期の受理に向けて活動を行うこととなった。

## 8. 次回の委員会について

次回の委員会は、6月の臨床ウイルス学会時に開催予定することになった。

以上

平成20年（2008年）3月16日（日）  
日本ワクチン学会Vaccine誌編集委員会  
（担当理事）委員長 岡部信彦

---

# § 2008年度第2回日本ワクチン学会Vaccine誌編集委員会議事録

日 時：2008年6月15日（日）16時30分～17時40分

場 所：名鉄犬山ホテル 6階 「アムール」

〒484-0081 愛知県犬山市大字犬山字北古券107-1 TEL：0568-61-2211

出席者：【委員長】岡部信彦【委員】奥野良信，熊谷卓司，浅野喜造，多屋馨子  
【オブザーバー】山西弘一【記録】中川庸幸（（株）春恒社）

欠席者：【委員】荒川宜親，清野 宏，田代真人，谷口清州，中山哲夫  
【出版社】海老原 実（エルゼビア・ジャパン（株））

### 1. 前回議事録の確認【資料：1】

岡部信彦委員長から前回議事録について報告がなされ、承認された。

### 2. Vaccine誌への掲載原稿の進捗状況および原稿確認【資料：2】

岡部信彦委員長から以下の投稿原稿・原稿の進捗状況の報告がなされた。

#### 1) 大谷 明 先生 追悼文（原稿担当：倉田先生）【資料：3】

2008年5月16日エルゼビア社へ原稿入稿。6月中に校正ゲラを委員会へ回覧予定。

#### 2) 第9回学術集会の統括およびシンポジウムのまとめ（原稿担当：奥野先生・廣田先生）【資料：4】

2008年5月16日エルゼビア社へ原稿入稿。6月中に校正ゲラを委員会へ回覧予定。

なお、同原稿については、統括とシンポジウムの原稿を1つの号に掲載するようにエルゼビア社へ確認することになった。（翌日、事務局から確認し同じ号へ全て掲載することを確認した。）

#### 3) 第12回学術集会のアナウンス（原稿担当：岡先生）【資料：5】

2008年5月16日エルゼビア社へ原稿入稿。6月中に校正ゲラを委員会へ回覧予定。

#### 4) 高橋賞設立の経緯について（原稿担当：清野先生）【資料：6】

2008年5月に編集委員会で原稿確認済み。高橋賞受賞総説とともに入稿予定。

#### 5) 第1回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：浅野先生）【資料：7】

現在、査読委員へ6月30日を締め切りとして査読依頼中。返却次第、著者校へ回し、清野先生の設立経緯の原稿とともにエルゼビアへ入稿予定。なお、キーワードも組み入れて原稿を作成することが確認され、後日、著者、査読者の意見をもとに加筆することになった。

#### 6) 第11回学術集会シンポジウムについて

4名のシンポジストの先生から原稿が届いており、査読者について選考を行い、学術集会時のシンポジウムについては座長がその任にあたっているため、奥野先生、宮崎先生にお願いすることになった。

上田重晴先生 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ1 【資料：8】  
植田浩司先生 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ2 【資料：9】  
中山哲夫先生 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ4 【資料：10】  
庵原俊昭先生 第11回日本ワクチン学会学術集会シンポ5 【資料：11】

### 3. 査読手続について【資料：12】

岡部信彦委員長から査読依頼用紙（案）が提出され承認された。

### 4. 今後の掲載予定について

- 1) 第1回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：神谷先生）
- 2) 馬場宏一先生の医事新報英訳
- 3) 第12回学術集会シンポジウムからピックアップし掲載予定

### 5. 次回の委員会について

次回の委員会は11月の第12回日本ワクチン学会学術集会時に開催することになった。

以上

平成20年（2008年）6月15日（日）  
日本ワクチン学会Vaccine誌編集委員会  
（担当理事）委員長 岡部信彦

---

日本ワクチン学会ニュースレター 第15号

2008年12月10日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局  
〒567-0085 茨城市彩都あさぎ7-6-8（独）医薬基盤研究所  
日本ワクチン学会理事長 山西 弘一

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階  
（株）春恒社 学会事務部内  
日本ワクチン学会係

TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176/ E-mail：jsvac@shunkosha.com

---